

7 月チャプレン便り

「わたしには愛がない」

あるお母さんが「わたしには愛がない」と言ってご自分を責められました。お子さまが障がいを持っておられ、近くの病院に行くために毎日車イスを押して坂道を上らなければなりません。真夏の暑さの中で額の汗をぬぐいながら、ふと、この子さえいなければどんなに楽かと思ってしまう。そんな自分がいるのに気づいて、愛がないとご自分を責められるのです。

その話を聞いて牧師は、こう言いました。
「A さん、あなたの汗がしみたそのハンカチの中に、母親としての愛があるのではないですか」と。人を愛するというのは美しい言葉ですが、簡単なことではありません。

わたしたちは、子育ての中で、たとえその子が障がいを持った子でなくても、限界を感じることがあるのではないのでしょうか。

私たちは、受けたものでしか、与えることはできません。愛もそうです。愛されて、愛に満たされて、その満たされた愛が溢れて、はじめて愛を与えることができるのです。

5回も離婚を繰り返し、真実な愛に飢えていた一人の女性に語ったイエスの言葉は、私たちに本物の愛は、どこから来るかを示しています。

聖書の言葉

イエスは女に答えて言われた、
「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

ヨハネによる福音書4章13節～14節

イエスキリストは、十字架上で、ご自分の命をささげて、真実な愛をしめされました。わたしたちは、このキリストの愛を知るときに、溢れる愛を知り、体験することができるのです。

石川三育保育園チャプレン 北 睦 夫